

第 18 回小諸新校再編実施計画懇話会

日時：令和 6 年 3 月 26 日（火）

18 時 00 分～19 時 30 分

会場：小諸市庁舎第 1 ・第 2 会議室

<次 第>

1 開 会

2 挨 拶

3 会議事項

（1）第 17 回小諸新校再編実施計画懇話会のまとめ

（2）開校に向けた検討事項の進捗状況について

（ワーキンググループ進捗状況）

（3）施設整備について

4 その他

<次回の予定>

第 19 回小諸新校再編実施計画懇話会

（日時）令和 6 年 5 月～6 月（予定）

（会場）未定

（内容）検討事項の進捗状況について 等

5 閉 会

新校再編実施計画懇話会開催要綱

(目的)

第1 県教育委員会が、統合新校ごとの再編実施計画を策定するにあたり、再編対象校に加えて、対象校が所在する地域の意見を聴くため、「新校再編実施計画懇話会」(以下、「懇話会」という。)を開催する。

なお、懇話会は、地方自治法第138条の4第3項の規定に基づき、法律又は条令により設置された附属機関ではないものとする。

(会議事項)

第2 懇話会は、次の事項について意見交換を行う。

- (1) 学校像、教育方針等に関すること
- (2) 校地・施設・設備等に関すること
- (3) 管理運営等に関すること
- (4) 教育内容等に関すること
- (5) その他、県教育委員会が必要と認める事項に関すること

(構成員)

第3 懇話会の構成員は、統合対象校の学校関係者(校長、教職員等)、地域の代表(自治体関係者、産業界の代表等)、同窓会、PTA、生徒の代表等とし、必要に応じ、県教育委員会が依頼する。

2 会議に座長を置く。

(開催期間)

第4 会議は統合新校が開校するまでの間、開催するものとする。

附 則

この要綱は、令和2年10月26日から施行する。

小諸新校再編実施計画懇話会 構成員名簿

	区分	氏名	所属等
1	自治体	田中 尚公	小諸市 副市長
2		山下 千鶴子	小諸市教育委員会 教育長
3		宮本 隆	北佐久郡町村教育委員会連絡協議会 会長
4	産業界	塩川 秀忠	小諸商工会議所 会頭
5		新津 伸太郎	小諸青年会議所 理事長
6		清水 信	(株)かのを屋 代表取締役
7	学識経験者	西村 廣一	元小諸高校・小諸商業高校 校長
8	地域	甘利 庸子	のぞみグループ 代表取締役社長
9		原 啓明	佐久地域振興局 局長
10	同窓会	高見澤 敏光	小諸商業高等学校同窓会 特別顧問
11		鷹野 昭裕	小諸高等学校同窓会 会長
12	P T A	臼田 明美	小諸商業高等学校P T A 会長
13		伊藤 美保	小諸高等学校P T A 会長
14		西田 祐恒	小諸市P T A連合会 会長
15	学校関係者	深沼 浩	小諸市校長会 会長
16		相原 修	小諸市内中学校代表 校長
17	再編対象校	伊藤 樹里	小諸商業高等学校 生徒会長
18		水澤 明夢	小諸商業高等学校 生徒会副会長
19		菊池 柚葉	小諸高等学校 生徒会長
20		村瀬 光海	小諸高等学校 生徒会副会長
21		坂口 健之	小諸商業高等学校 校長
22		原 周一郎	小諸商業高等学校 教諭
23		井村 敏明	小諸高等学校 校長
24		木住野 修平	小諸高等学校 教諭

事務局

小諸商業高等学校		小諸高等学校		高校再編推進室	
辻 隆秀	教頭 (事務局長)	細萱 裕樹	教頭 (副事務局長)	柳澤 弘蔵	主幹指導主事
原 周一郎	教諭	木住野 修平	教諭	原 多恵子	主任指導主事
大槻 高範	教諭	大澤 佑介	教諭		
植原 崇裕	教諭	井出 玲子	教諭		
郷津 祐介	教諭	坂口 俊夫	教諭		

第17回小諸新校再編実施計画懇話会まとめ（案）

日時	令和5年（2023年）11月29日（水）18時00分～19時40分		
会場	小諸市庁舎 第1・第2会議室		
出席	懇話会構成員 21名		
欠席	懇話会構成員 3名	傍聴者	傍聴 6名（報道1社）
事務局	小諸商業高校	辻教頭（事務局長）、大槻教諭、植原教諭、郷津教諭	
	小諸高校	細萱教頭（副事務局長）、大澤教諭、坂口教諭	
	県教育委員会	柳澤主幹指導主事、原主任指導主事	
当日資料	○次第、開催要項、構成員名簿、第16回懇話会まとめ、地域説明会記録、周知広報活動、ワーキンググループ進捗状況、学校視察報告、「新しい普通科」について		

会議事項

- (1) 第16回懇話会まとめ、(2) 地域説明会の実施状況について、(3) 開校に向けた検討事項の進捗状況について（ワーキンググループ進捗状況、学校視察）(4) 「新しい普通科」について

出された意見（要旨）

【地域説明会の実施状況について】

- 3科融合の新しい学びとは何か。中学生が理解できるような説明をしてもらえるとありがたい。
- 中学生がこの高校に行きたいと思うようなわかりやすい説明をもらいたい。
- 地域説明会は、これから進学しようと思っている中学生・保護者のためのもの。まだ煮詰まっておらず、致し方ない点もあるが、中学生と保護者の方がイメージできるような工夫が欲しい。（小諸義塾高校は、現在の小諸商業高校、小諸高校とどこが違うのか。野沢北高校、佐久長聖高校とどこが違うのか。）
- 認知能力と非認知能力がある。偏差値は認知能力、数字でわかるもの。コミュニケーション能力、リーダーシップ、決断力など数字で表せないものが非認知能力。その非認知能力を、小諸義塾高校では、「探究」という大きな柱で養うことができる。その辺りをもう少しプッシュしたらどうか。
- 保護者から、この学校は「進学校」なのか、「就職の学校」なのかという声を聞く。進学者が多い学校が「進学校」であると思うが、地域との協働で子どもたちを育てていくことと「進学校」が矛盾しないように。
- 新校は「地域」があまりにも出ていて、大学進学を考えた場合、「小諸義塾は選べないかな」という受け止め方も自分の周りの方にはある。保護者は、「出口」を考えている。「勉強したい」「学びたい」「いい大学に入りたい」という意識は、一般的にはまだまだ強い。誤解されないように、丁寧に作り込むことが大事。

【開校に向けた検討事項の進捗状況について（ワーキンググループ進捗状況、学校視察）】

- 例えば、(50分授業を)45分授業にすると授業時間が5分短くなる。それによって生み出された時間を各教科の習熟の時間に充てる。通常の45分授業では、対話を軸にした探究型、問題解決学習を行うという考え方もある。
- 今、50分授業だが、小諸義塾高校は45分授業。生徒側から見ると5分しか変わらないなら、5分減らして7時間授業や問題解決の時間に充てるなどすると思う。
- すでに小諸商業高校、小諸高校では、地域でのフィールドワークを重ね、大きく力をつけていただいている。探究での学びはとても大事だと感じている。コーディネーターについては、行政や経済界の皆さんとしっかりと支援体制づくりに取り組みたい。

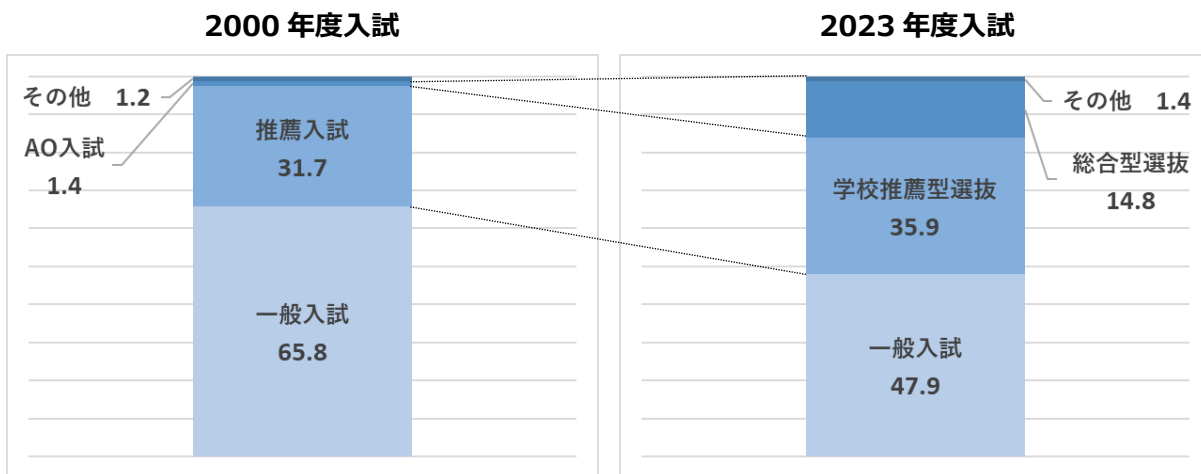
【「新しい普通科」について】

- 長野高校は、SGH（スーパーグローバルハイスクール）の指定が終わった後、文部科学省の「地域との協働による高等学校教育改革推進事業（グローバル型）」の指定を受けた（校内での呼称は「NGP（長野グローバルプロジェクト）」）。これは「地域」が一番のキーワード。地域の様々な団体（青年会議所や八十二銀行、市役所、県庁等）とコンソーシアムを組んで探究を進めていく。そのためには学校だけでは難しく、地域とのコーディネーターにいてほしいと思っていたが、そうはいかなかった。入ってもらえるのは非常にいいことだと思う。
- 「地域」という言葉の中には、大学とか他の機関という意味合いも入っていると考える。そういった所とも連携するためには、いろんな支援が必要という意味での地域連携だと考えているので、この方向性はいいと思う。こういったことが進学に結びつかないということは絶対はない。今の高校のトレンドだと感じている。

大学入試制度について

	一般選抜	特別選抜
国公立	○一次：大学入学共通テスト（※ 1） ○二次：個別学力試験 （前期・中期・後期日程入試）	○学校推薦型選抜（※ 2） （指定校制、公募制等） ○総合型選抜（※ 3） （選抜型、対話型、体験型等）
私立	○大学入学共通テスト利用入試 ○個別学力試験	

<入試区別大学入学者の割合（%）>



（文科省調査による。小数点以下第 2 位を四捨五入のため 100 にならない）

- ※ 1 大学入学共通テスト
 - ・各大学が独立行政法人「大学入試センター」と共同で実施する試験
（2021 年度入試から「センター試験」に代わり新たに導入）
- ※ 2 学校推薦型選抜
 - ・出身学校長の推薦に基づき実施される選抜
 - ・指定校制（大学が指定した高校の生徒対象）と公募制（大学の出願条件を満たしている生徒対象、出身校不問）に大別
- ※ 3 総合型選抜
 - ・書類審査と面接等を組み合わせ、能力・適性や学習に対する意欲、目的意識等を総合的に判定する選抜
 - ・選抜型（レポートやプレゼンなど）、対話型（複数回の面接）、体験型（模擬授業や実験への参加、レポート提出）に大別
- ※ 2、※ 3 とも、学力を確認する評価方法の実施が必須
小論文、プレゼン、口頭試問、実技、教科に係るテスト、資格、大学入学共通テストなど

小諸義塾高校(仮称) WG進捗状況

第18回 小諸新校再編実施計画懇話会資料

WG	検討項目	令和5年度末までの進捗状況
A: 学校運営検討	校歌	・校歌は小諸高校音楽科卒業生 横内日菜子氏に依頼済み
	校旗・校章	・小諸にゆかりのある3名のデザイナーの方々に校章のデザインを依頼した。R6年8月末を目途に作成を依頼しており、その後、出されたデザインを年内に選定し、決定を目指す。決定方法については検討中である。
	3つの方針・グランドデザイン	・原案作成段階までで作業中である。
	部活動方針	・生徒会と連携しながら、合同チームとしての練習時期や活動場所などを確認済み
B: 教務関係	学校説明会	・11月に上田市、佐久市、小諸市で学校説明会を実施済み ・R6年度中にR7年度入学生に向けた説明会を実施する。
	日課時限	・新校日課案確定[※1] (電車のダイヤ等の理由により今後変更の可能性あり)
	年間行事検討	・WG Fで大規模行事の方向性を検討中
	使用教科書	・令和7年度入学生の教育課程編成とともに両校各教科で使用教科書の検討を行う。
	広報計画・パンフ作成	・リーフレットを作成し、機会をとらえて配布している。
	小中学校向け広報	・R7年度入学生に向けた学校説明会の実施を計画する。
C: 進路・学習指導	教育課程 [1班]	・単位制、2学期制、31単位・45分授業×33コマ展開[義塾ピース]を決定した。義塾ピースをどこに入れるか、余りコマの運用方法は引き続き検討する。 ・合同教科主任会議を実施し、今後は各教科で連絡をとりながら、教育課程の検討を進めている。 ・WGで令和8年度入学生の教育課程編成に向けて、3科の特色を生かした探究的な学びをベースとした地域連携、学科・教科横断型学習をどのように展開するのかを検討している。(R6年度検討事項)[※2] ・必修科目・学校が定める必修科目を各教科へ調査を行い、科目と単位数の確認を行った。(R5年度3月末まで) ・共通選択科目をどのようにするのか、探究的な学びとあわせて検討し、生徒の進路を保証できるように進めていく。 ⇒ R5年度3月の段階で、両校の進路状況を把握し、統計資料を作成済み ・令和6年度の7月中学生体験入学までに必修科目・学校が定める必修科目とその単位数を決定し、共通選択科目の内容についても検討を進め、R8年度入学生教育課程の骨子の完成を目指す。 ⇒ R8年度教育課程表を参考にしながらR7年度教育課程を再検討し、決定する。
	探究的な学び [2班]	・普通科 1年次2単位 2年次2単位 3年次3単位
	地域連携 [2班]	・音楽科 1年次2単位 2年次2単位 3年次3単位
	教科・学科横断型の学び [2班]	・商業科 1年次4単位 2年次2単位 3年次3単位
	本物に触れる学び [2班]	R8年度教育課程表に組み入れる方向で各教科から意見を集約する。(R5年度3月まで)
進路指導方針 [3班]	・両校進路係で今年度の各校進路状況の確認を行った。 ・指定校推薦などの情報交換及び指定校推薦先への統合に関する情報提供を行い、指定校推薦の継続を依頼するスケジュールを確認する。	
D: 校舎・施設	既存校舎の設備	・既存校舎改修工事の基本計画最終案が決定し、ローリング計画の確認をした。
	既存校舎からの引越	・令和6年度7月に取り壊しを予定している第2体育館、弓道場、卓球場にある備品の保管場所をどうするのが課題である。 ・ローリング計画による備品等の移動作業について、実施の方法を県教委と調整中である。
	現校舎の改築	・工事期間中の授業について 特に体育施設が利用できないことへの対応が必要である。 ・職員室のレイアウト他、各教室の配置が決定した。
	備品の整備	・両校120周年行事の一環として、グラウンドの人工芝化や備品の整備などを両校同窓会に要望した。
E: 生徒会	生徒会組織	・現小諸高校の生徒会組織を基本とした体制とすることが決定している。
	部活動	・R6からの合同練習の開始時期を各クラブに確認し、決定した。[※3] ・来年度から統合チームとして参加するために、一部のクラブで合同練習を開始している。 ・小諸商業高校工事中の練習場所の確保など課題を整理して対応している。
	文化祭	・新生徒会役員により、来年度の文化祭の交流を検討している。
	生徒会行事	・石川地震への募金活動を協力して行うなど、生徒会同士が話をして協働できる部分から始めている。
標準服検討	・取扱い業者が決定し、職員・生徒・保護者にサンプルを展示した上で、生地やデザインに関するアンケートを実施し、集約した。 ・アンケートの結果、色は濃紺、ブレザータイプの上着にすることが決定した。 ・2/20に両校生徒会役員と取扱い業者によるワークショップを行い、活発な意見交換を行った。 ・今後は職員だけでなく、生徒、保護者の意見なども聞きながら、ブレザーのデザイン、ネクタイなどを決定していく。3/14(木)三者協議会で職員・生徒・保護者からも意見集約を行った。 ・R6年5月末までにデザインを決定する。	
F: 行事検討	文化祭	・WG Eにて検討を進めている。
	スマイル小商店街	・10月中下旬に実施する方向で進める。
	音楽科 定期演奏会	・10月下旬に実施する方向で進める。ホールの予約状況により実施日が変更になる可能性が高い。
	修学旅行・研修旅行	・11月中旬以降～12月上旬にかけて実施。2泊3日を原則とする。平和学習への取り組みは継続し、旅行場所については学年で決定する。
新たな学校行事	・現在、小諸商業高校で実施している合唱コンクールは、R6年度は小諸高校音楽科の職員、生徒に練習を手伝ってもらったり、審査員をお願いするなど協力してもらおうように進めている。 WGとすれば実施する方向を前提に進めていきたい。	

※1

月・水

SHR	8:50 ~ 9:00	10分
①限	9:10 ~ 9:55	45分
②限	10:05 ~ 10:50	45分
③限	11:00 ~ 11:45	45分
④限	11:55 ~ 12:40	45分
昼	12:40 ~ 13:25	45分
⑤限	13:25 ~ 14:10	45分
⑥限	14:20 ~ 15:05	45分
SHR/清掃	15:05 ~ 15:20	15分

火・木・金

SHR	8:50 ~ 9:00	10分
①限	9:10 ~ 9:55	45分
②限	10:05 ~ 10:50	45分
③限	11:00 ~ 11:45	45分
④限	11:55 ~ 12:40	45分
昼	12:40 ~ 13:25	45分
⑤限	13:25 ~ 14:10	45分
⑥限	14:20 ~ 15:05	45分
⑦限	15:15 ~ 16:00	45分
SHR/清掃	16:00 ~ 16:15	15分

月・水 (放課後)

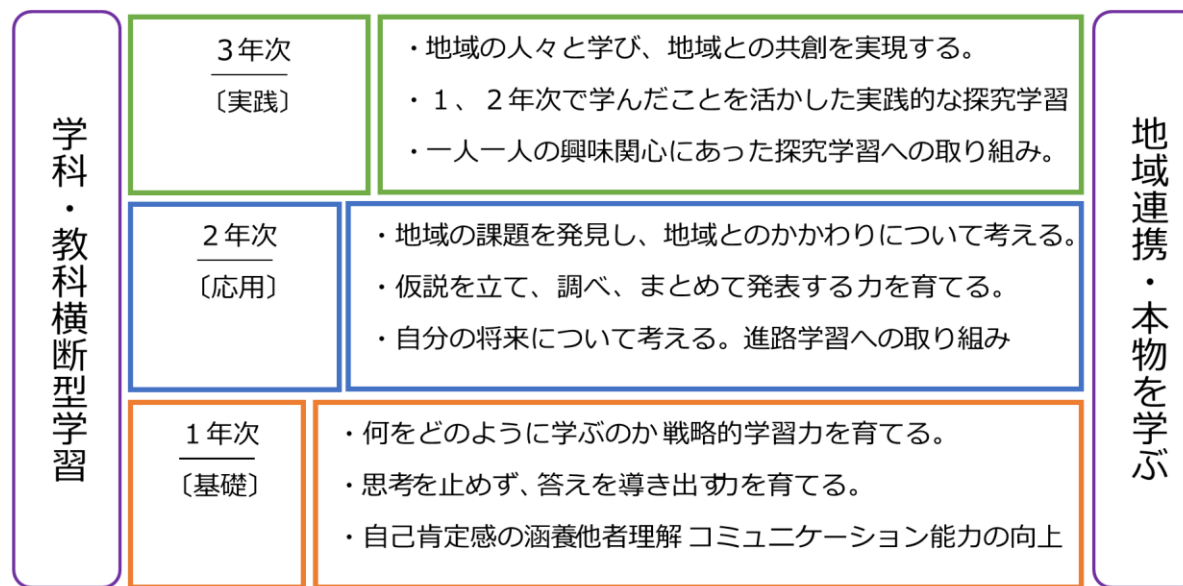
部活開始	15:35 ~	【例】
会議開始	15:35 ~	【例】
下校	17:00	

火・木・金 (放課後)

部活開始	16:30 ~	【例】
会議開始	16:30 ~	【例】
下校	17:00	

※2

～未来を創造する探究プログラム～



※3

令和6年3月現在

運動部	
弓道	合同
レスリング	単独
ソフトテニス	合同
卓球	合同
男子バスケットボール	単独
女子バスケットボール	単独
バドミントン	合同
男子バレーボール	来年度のインターハイ予選までは単独。それ以降は検討
女子バレーボール	※現在小商の部員なし。入部後検討する
野球	単独
サッカー	合同
陸上競技	小諸のみ
空手道	小諸のみ
文化部	
文化創作（美術・漫画研究）	小商は美術のみ。外部からの依頼等で合同制作の可能性はあり。
文化創作（写真）	小諸のみ
文化創作（書道）	小諸のみ
調理	小商は同好会
ワープロ	小商のみ
情報処理	小商のみ
商業計算	小商のみ
簿記	小商のみ
JRC	小商のみ
音楽	音楽科のみ
管弦楽	音楽科のみ
演劇	
吹奏楽	他校も含めて演奏会等を行っているため、それを継続。
軽音楽	合同演奏会等の可能性あり

学校と社会をつなぐ連携コーディネーター配置事業

高校教育課

1 目的

従来の学校内で教育活動を完結させる学びではなく、社会に開かれた学校で生徒自らが問いを立て、多様な他者と協働し課題に取り組める環境を整備する。

【背景】

- ・「新学習指導要領」：地域の企業等との協働を前提とした探究学習の要請
- ・「第4次長野県教育振興基本計画」：個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実
“一人ひとりが主体的に学び他者と協働する学校をつくる” 等を位置付け

2 今年度の実施状況

(1) コーディネーター (CD) の先行配置

	職業校 (池田工業高校)	進学校 (野沢北高校)
CD 配置数	1 名	1 名
業務内容	企業訪問・インターンシップ受入調整、職業研修の実施 等	探究活動支援、外部サポーターの発掘、コンソーシアムの立ち上げ 等
実績(4~10月)	月2~3日程度	月1~2日程度
効果	・就職でのミスマッチ解消 ・地域と学校の一層の繋がり	・生徒の問題発見能力の向上 ・教員や生徒への地域資源の提供

(2) ワーキンググループ (11月までに4回実施) の検討状況

- ア これからの生徒の学びにCDが必要。ただし、CDはこうあるべきと決めつけるのはよくない。
- イ 学校ごとに様々な役割が考えられ、校長先生や地域の実情等に合わせて、学校がCDを選べる形が良い。効果的な配置や費用負担の方法の検討も引き続き必要。
- ウ CD 役割や取組事例を共有するための定期的な研修を行う必要がある。(学校、地域、市町村等)

3 R6年度の取組 (案)

(1) 新しいモデルとなる学校を指定してCDを配置

- ① 複数校をカバーするCD：1名
- ② 市町村との費用折半したCD：1名
- ③ 再編統合校へのCD：1名
- ④ R5指定校の継続：1名

(2) 研修会の開催

高校教員や関係者を対象とした研修会を開催。有識者による講演等を行う。

4 予算額 257万8千円 (一般財源)

【令和5年度当初予算額 274万2千円 (一般財源)】